





鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (単位mm) 1988版

§ 1 一般事項

特記仕様書による。

○特記なき場合は、本標準図に従うものとする。  
又、本標準図に明記なき場合は、JASS5による。  
○dは丸鋼では、異形鉄筋では、呼び名に用いた鉄筋とする。

§ 2 共通事項

鉄筋の表示記号は下表による。

記号	丸	角	×	○	◎	◎	◎	◎	◎
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	
丸	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ			

- フックのない場合
- フックのある場合
- 本数に差がある場合
- 圧接継手表示

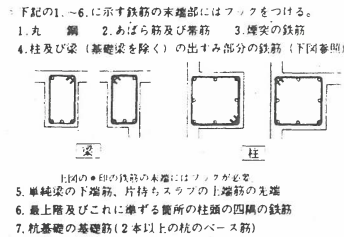
鉄筋の折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の長さ	
		鉄筋の折り曲げ角の長さ	鉄筋の全長
180°	SR24, SD24	3d以上	4d以上
	SD30, SD35	4d以上	4d以上
135°	SR24, SD24	3d以上	6d以上
	SD30, SD35	4d以上	4d以上
90°	SR24, SD24	3d以上	8d以上
	SD30, SD35	4d以上	8d以上

鉄筋の折り曲げ角度	鉄筋の種類	定着長さL		重ね継手の長さL
		一般	下ばり筋	
90°	SR24	210以上	25d	25d
	SD24	270以上	35d	35d
135°	SR24	185以上	25d	25d
	SD24	210以上	35d	35d
180°	SR24	210以上	25d	25d
	SD24	270以上	35d	35d

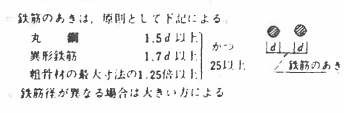
1. 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さには含まない。
2. 直径の異なる鉄筋の重ね継手の長さは細いほうの鉄筋の公称直径とする。
3. ( )内は軽量コンクリートの場合を示す。
4. 表中にない種類の鉄筋を用いる場合、下欄の定着長さ以外に日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規程」17条による。
5. 定着及びスラブ筋の定着のなかの中間折り曲げについては表中の定着長さL(又はL')にかかわらず、柱及び梁の中心をこえてから折る。
6. 軽微な箇所については、係員の承認を得て定着長さを20d程度とすることができる。

1. 圧接継手
  - 間隔:  $a \geq 400$
  - 芯ずれ:  $e \leq 0.2d$   $d \geq 1.4d$
2. 重ね継手 (下記のいずれかとする)
  - 間隔:  $a \geq 400$
  - 芯ずれ:  $e \leq 0.2d$   $d \geq 1.4d$
3. D29, D32の継手は圧接としなければならない。
4. 鉄筋径の差がAをこえる場合は圧接としてはいけない。

2-5 鉄筋のフック



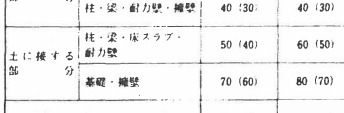
2-6 鉄筋のあき



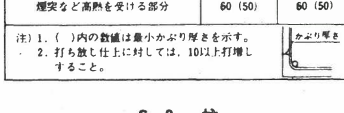
2-7 かぶり厚さ

コンクリートの種類	普通コンクリート	高強度コンクリート
土に接しない部分	30 (20)	30 (20)
土に接する部分	40 (30)	40 (30)
基礎・地中梁	50 (40)	60 (50)
煙突など高温を受ける部分	70 (60)	80 (70)

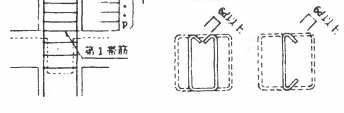
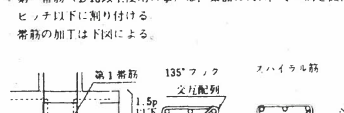
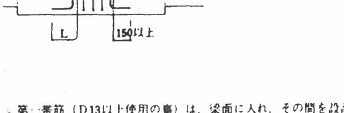
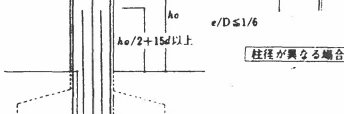
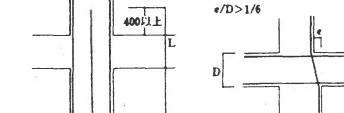
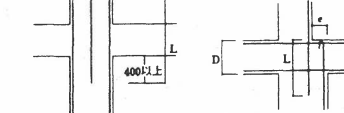
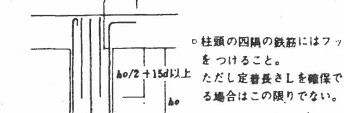
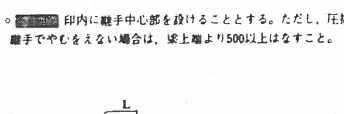
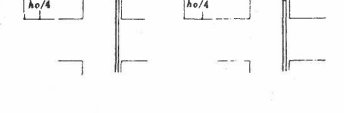
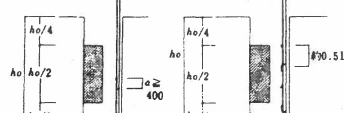
3-1 主筋の継手



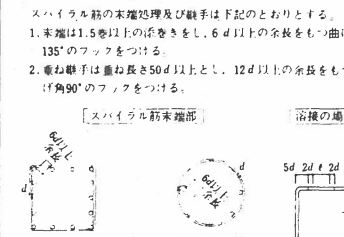
3-2 主筋の定着



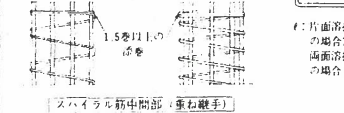
3-3 帯筋



3-4 補助筋



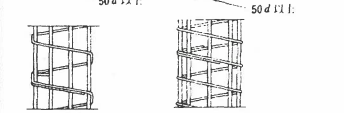
4-1 主筋の継手



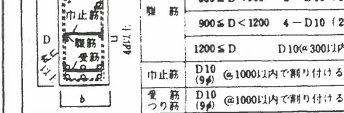
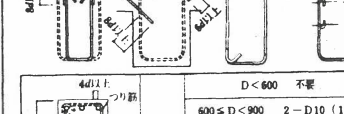
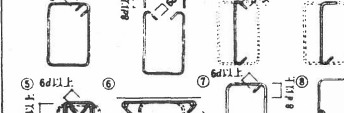
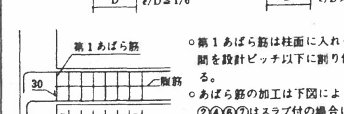
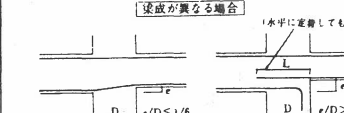
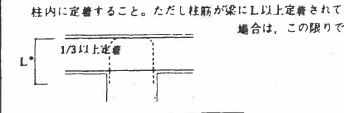
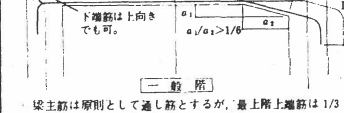
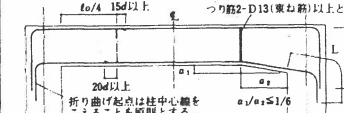
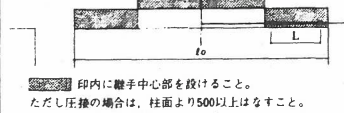
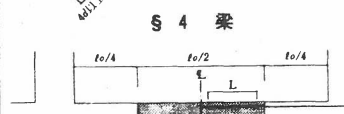
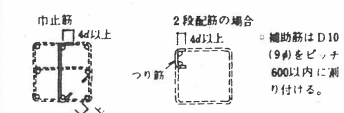
4-2 主筋の定着



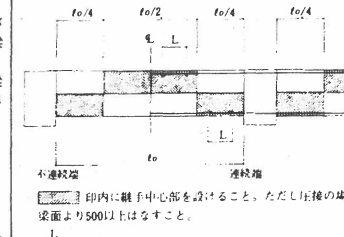
4-3 あばら筋



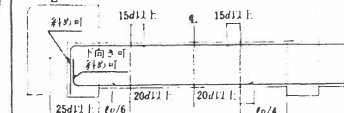
4-4 補助筋



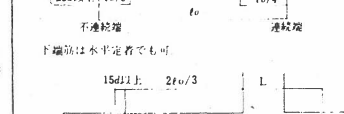
4-5 小梁及び片持梁



4-6 地中梁及び地中小梁



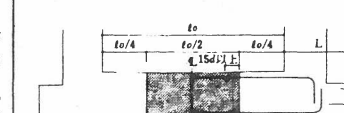
4-7 梁の貫通補強



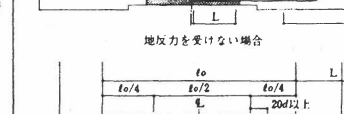
5-1 鉄筋の折り曲げ及び定着



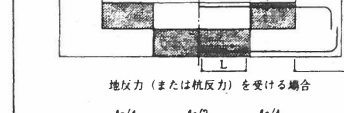
5-2 継手



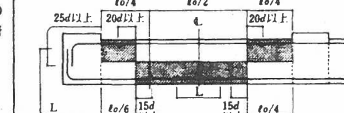
5-3 片持ちスラブ



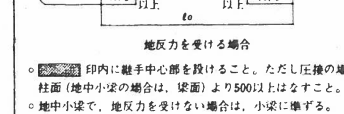
5-4 補強筋



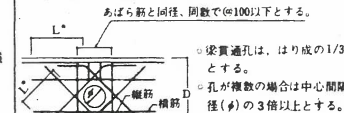
6-1 定着及び継手



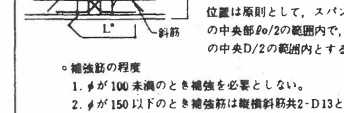
6-2 標準壁リフト



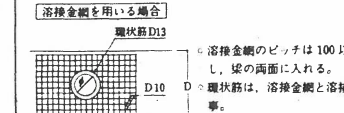
6-3 補強筋



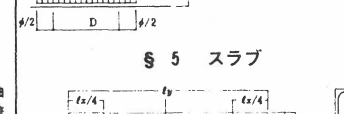
7-1 独立基礎



7-2 杭基礎



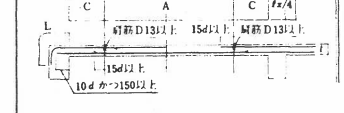
7-3 べた基礎



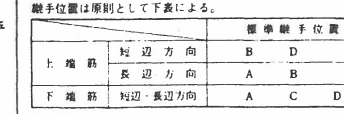
7-4 基礎と地中梁



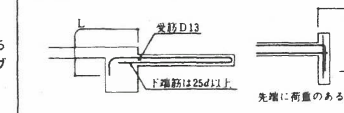
8-1 階段



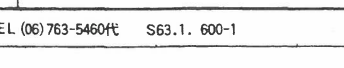
8-2 土間コンクリート



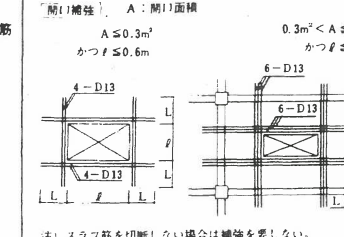
8-3 打増し補強



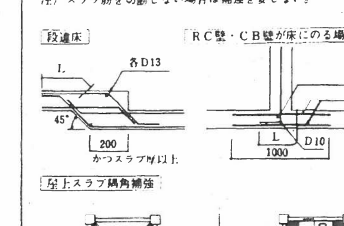
8-4 増築予定



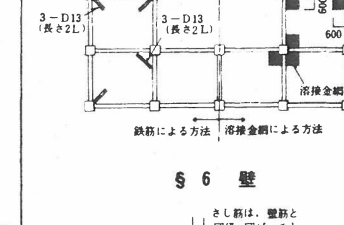
§ 5 スラブ



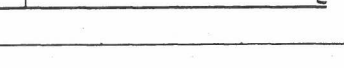
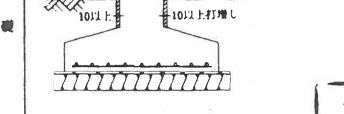
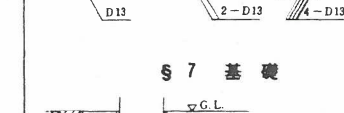
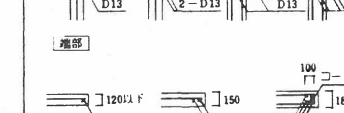
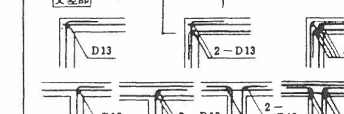
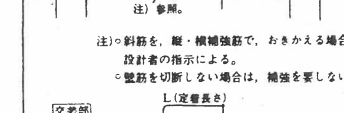
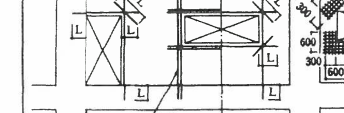
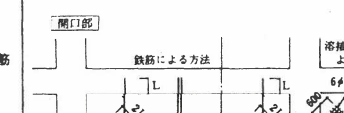
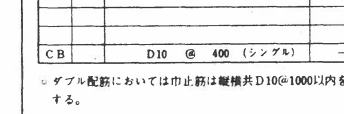
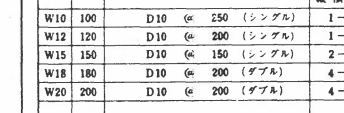
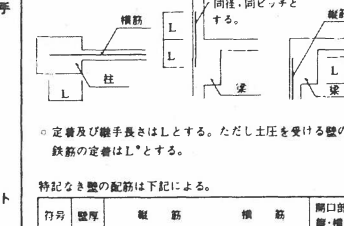
§ 6 壁



§ 7 基礎



§ 8 その他



市立大東保衛所 修繕工事

鉄筋コンクリート配筋標準図	A30
鉄筋コンクリート配筋標準図	鉄筋コンクリート配筋標準図
鉄筋コンクリート配筋標準図	鉄筋コンクリート配筋標準図
鉄筋コンクリート配筋標準図	鉄筋コンクリート配筋標準図



**壁配筋**

$L_1 = 40d$      $L_2 = 35d$      $L_3 = 25d$

TYPE	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(A) 壁工梁の交差部 壁の隅部									
TYPE	10	11	12	13	14				
(A) 壁工梁の交差部 壁の隅部									
TYPE	1	2	3	4	5	6	7		
(B) 壁工梁の交差部									

**壁配筋 2**

① 90度の折曲角度  
70度の折曲角度

	ダブル	135°
	シングル	180°
	ダブル	135°

② 見方

/ - 壁長  
 ⊙ - 壁中補筋 (基礎埋込部埋込筋)  
 ○ - 水平配筋 40d

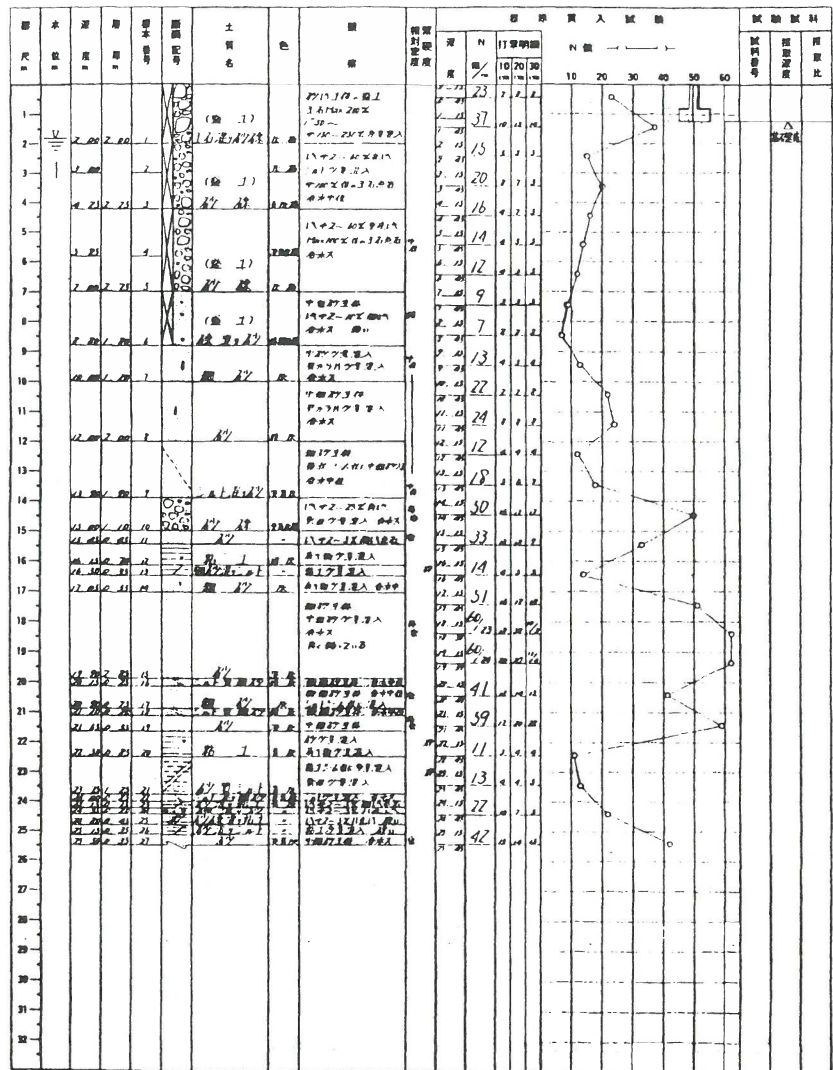
  

融着. 免着



土質柱状断面図

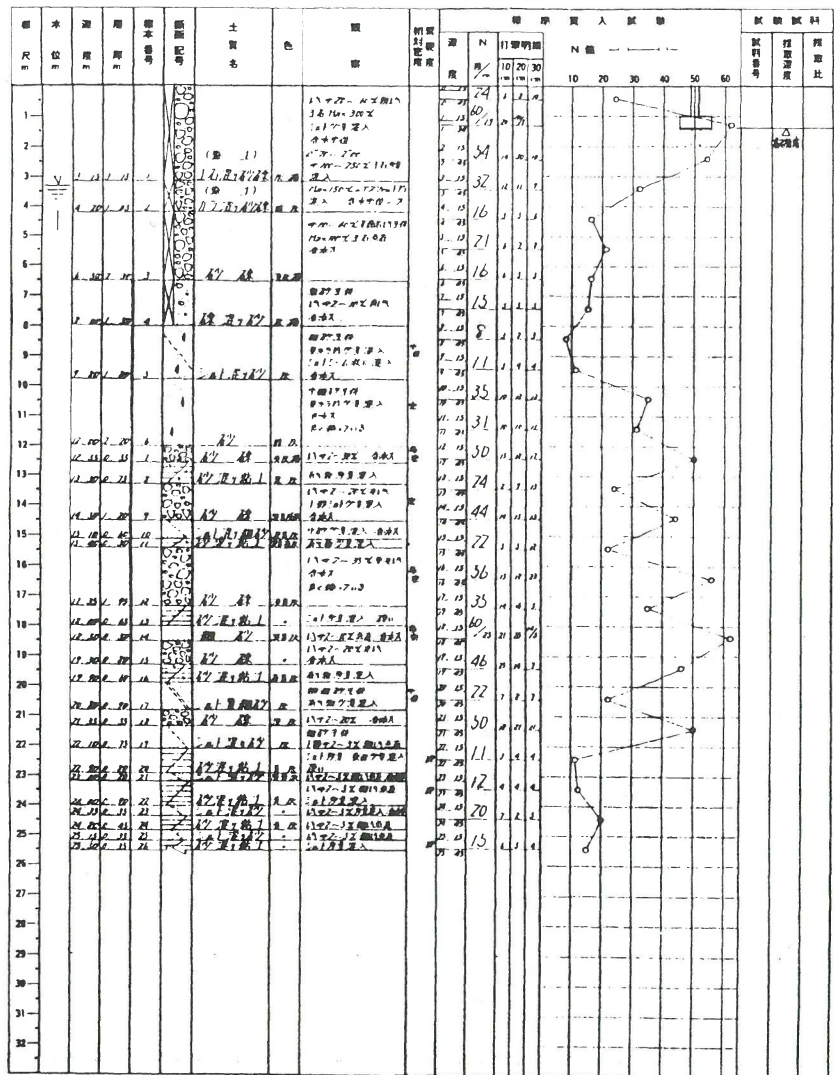
調査名 市立大東保腎所跡地調査  
 調査年月日 昭和63年7月4日 ~ 7月5日  
 調査地名 下庄市新浜町1-3  
 調査地点 No. 1 標高 KBM+0577m  
 地下水位 孔内水位 GL-185m



大東ボーリング調査事務所

土質柱状断面図

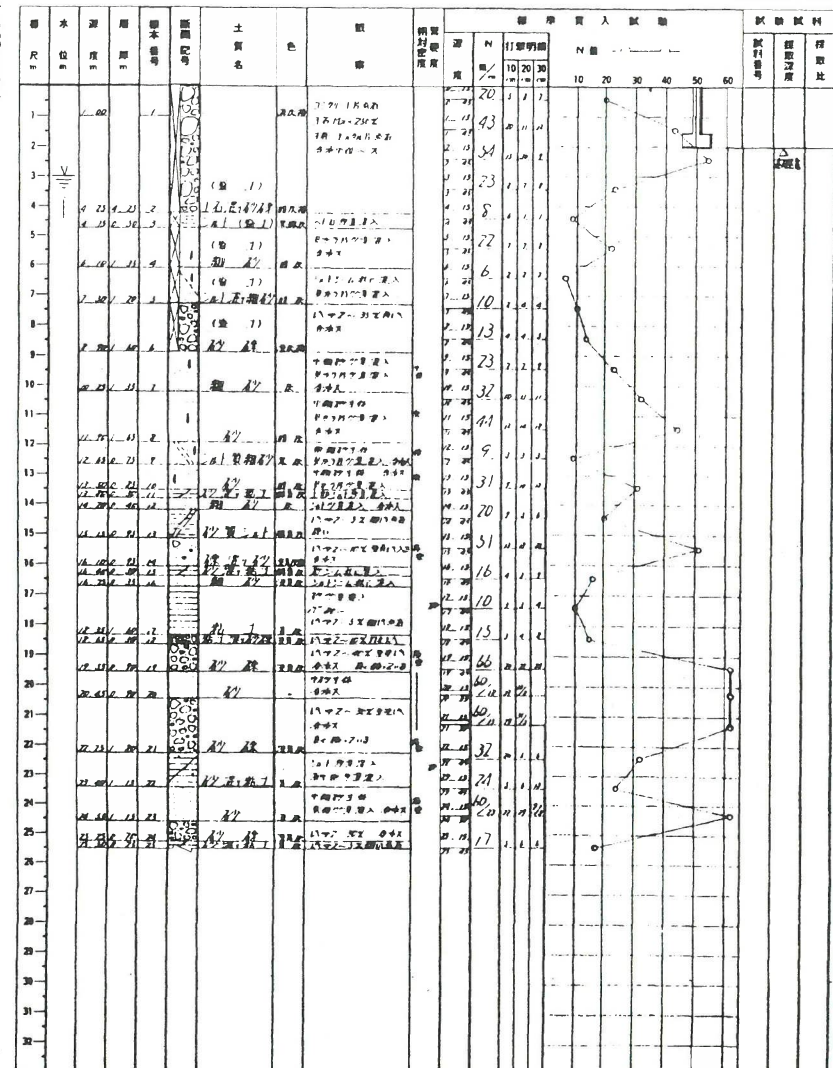
調査名 市立大東保腎所跡地調査  
 調査年月日 昭和63年7月6日 ~ 7月7日  
 調査地名 下庄市新浜町1-3  
 調査地点 No. 2 標高 KBM+0655m  
 地下水位 孔内水位 GL-330m



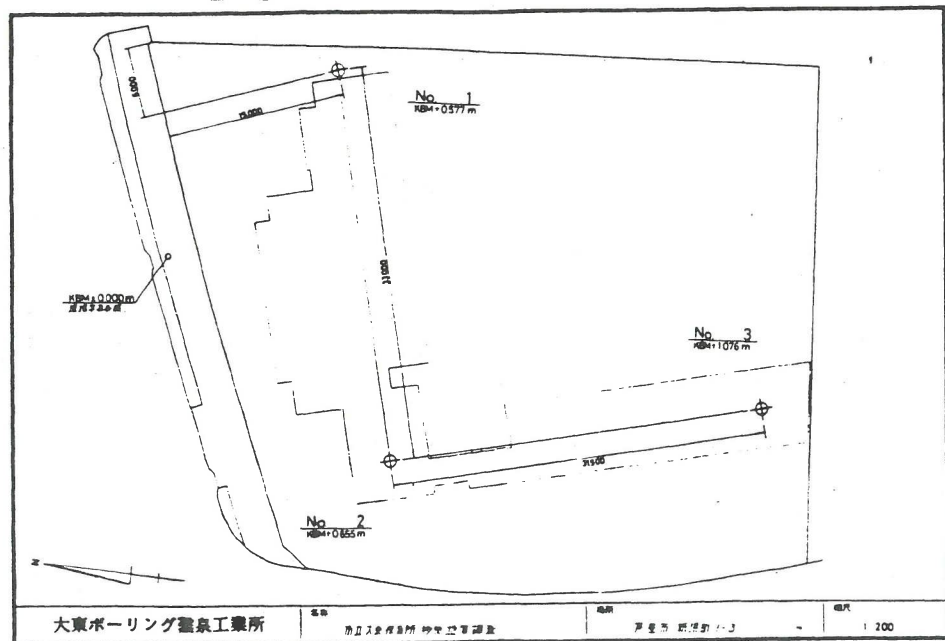
大東ボーリング調査事務所

土質柱状断面図

調査名 市立大東保腎所跡地調査  
 調査年月日 昭和63年7月8日 ~ 7月9日  
 調査地名 下庄市新浜町1-3  
 調査地点 No. 3 標高 KBM+1076m  
 地下水位 孔内水位 GL-300m



大東ボーリング調査事務所



大東ボーリング調査事務所

市立大東保腎所 跡地調査  
 土質柱状断面図  
 A32  
 昭和63年7月  
 第882号